

市之川公民館だより 令和7年2月号 (No.614号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「12月末現在」

Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 8人(男3人・女5人)

eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 6世帯

※ 西条市市之川公民館だよりで検索するとカラー版がご覧になれます。

2月 如月 (きさらぎ)

梅の便りが聞かれる季節となりましたね。

皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今年はインフルエンザが流行しております。特に、外出時の『マスク着用』や帰宅後の『うがい・手洗い』を心がけ、お元気でお過ごしください。

公民館の花

【12月19日撮影】
白色の水仙が咲き始めました。



【1月18日撮影】
ラッパスイセンが咲き始めました。



《2月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
8	土	からおけ会 10:00～ 集会室
11	火	祝 建国記念の日
22	土	からおけ会 10:00～ 集会室
23	日	祝 天皇誕生日

【1月18日撮影】
菜の花もあちこちで咲き始めました。春が楽しみです。



※ ふるさとの集い（花見会）

日 時：4月6日(日) 11時～13時

場 所：集会室

会 費：無料

※令和7年度（第43回）をもって『ふるさとの集い』は最後の集いとなる可能性があります。市之川公民館での思い出に多くの人の来館をお待ちしております。詳細は3月号にてご案内します。



写真は平成31年4月7日に撮影したものです。私が館長に就任して初めてのイベントです。

※ 社会福祉協議会市之川支部から【12月28日（土）】

市之川公民館では社会福祉協議会市之川支部と合同で【敬老の家事業】を行いました。9名の参加がありました。皆さん、準備や片付け、ご協力ありがとうございました。

準備中



昼食会



午前中に雪が降り始めました。視界の悪い時期もあり、帰りを心配していましたが、積もるまでには至りませんでした。



市之川鉱山の未来を考える会の梶本事務局長による講話。



カラオケ会。
久しぶりに賑やかな公民館となりました。



※ 愛媛県総合科学博物館にて

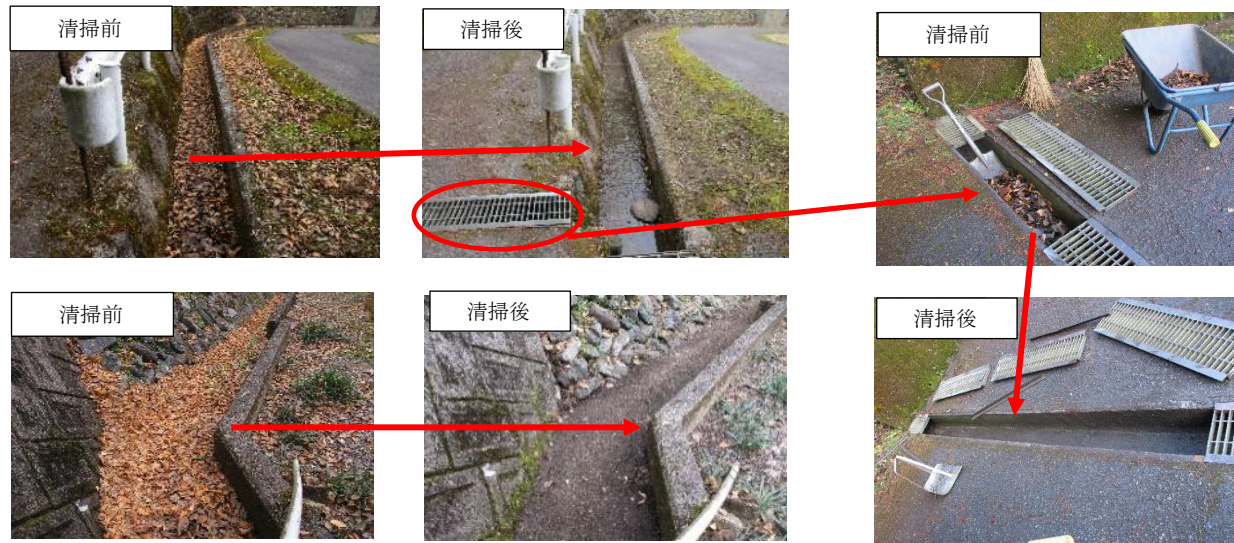
12月14日～2月2日まで愛媛県総合科学博物館で開催された企画展『石のワンダー』を見学に行きました。会場内には愛媛県産の鉱物のほか、国内各地の鉱物や岩石が展示されておりました。その中に市之川鉱山産の輝安鉱が展示されていました。【標本の所蔵（写真）：愛媛県総合科学博物館】



輝安鉱は、アンチモンと硫黄の化合物で、金属光沢を帯びた鉛灰色、結晶は柱状になります。一般的な長さは数mmから数cmですが、西条市の市之川鉱山からは60cmを超える結晶が産出しました。その結晶の大きさと美しさから世界的に有名で、大英博物館をはじめ世界中の博物館に展示されています。輝安鉱は三波川変成岩類や新第三紀のれき岩中に発達した鉱脈から産出します。鉱脈は地下深くからアンチモンを含んだ熱水が上昇して形成され、巨大な結晶は鉱脈中の大きな空洞（晶洞）にできたものです。現在、市之川鉱山跡には、坑道の入口のひとつ「千荷坑」が残され、市之川公民館には、鉱石や鉱山が稼働していたころの写真、使われていた道具などが展示されています。【愛媛県総合科学博物館の解説パネルから引用】

※ 公民館の水路掃除・道路清掃

1月5日（日）～12日（日）にかけ水路の掃除を行いました。水路は落ち葉や土砂により埋もれていましたが、水が流れるようになりました。また、公民館への進入路の落ち葉も除去しました。



グラウンド内にも落ち葉が積もっていましたが、こちらも除去しました。



公民館への入口



※ 千荷坑周辺の除草

1月8日（水）千荷坑周辺の除草を行いました。

道路から千荷坑への入口



千荷坑



鉦山事務所跡から撮影



2025年1月10日

～毎月10日は人権を考える日～

『令和5年度 人権意識を高めるための作品集』から児童・生徒の人権作文を掲載します。

人権けい発劇に参加して

今治東中等教育学校 1年 渡邊 くるみ

（令和5年度掲載時大町小学校6年）

私は、西条市の人権けい発劇に参加しました。きっかけは、西条市の合唱団でその劇のラストの歌を歌うことになったからです。そこで、部落差別やハンセン病での差別を知りました。特に、部落差別では差別をなくそうとする活動が逆に差別をひどくさせていたということが印象に残りました。そして、自分も気が付かないうちに差別をしているかもしれないということにびっくりしました。差別のことは学校でたくさん学んだけれど、それはほんの一部で、世界にはもっとたくさんの人がいろんな差別で苦しんでいることがわかりました。そして、そのほとんどの人がだれかに気付かれもせず、助けられもせずたった一人で生きていかなければいけないと知って、とても驚きました。

劇を練習している人達はとても真剣で細かいところを何度も修正して、そのことが見ている人に正しく伝わるようにしていました。大町小学校や他の学校の先生、中学校の生徒達もみんな役になりきって演技をしていて、こんな身近に差別をなくすために積極的に行動している人達がいることを改めて感じました。ラストの歌を作った人にも会いました。歌詞の中の「熱と光」は、この劇の一番大事な言葉で、オリンピックの聖火のようにつなげていくという意味があり、なにか一つの事を一生けん命にやって周りを明るくするという意味もあるそうです。私は歌詞の中で「だれもが住みよい町は今日も笑顔であふれている」というところが好きです。なぜかという時間はかかってもいつかは笑顔あふれる町を実現させたいという強い思いを感じたからです。

今回の劇で私は、差別やいじめをなくして世界をだれもが住みよいところにするには三つの事をみんなができるようになればいいと考えました。一つ目は、「一人一人違ってもそれでいい。」と考えることです。二つ目は、差別やいじめについて簡単なことでいいから一人でも多くの人に知ってもらおうということです。三つ目は、どんな言葉も相手を傷つけないかーたん考えてから言うということです。軽い気持ちで言った言葉でも、何十年も相手の心に引っかかり、傷つけてしまうということがあると知ったからです。この三つのことをみんなが考えていけば、だれもが住みよい町が実現するのではないかと思います。

※の注釈 間違った解釈と理解をしないために

「部落差別では差別をなくそうとする活動が逆に差別をひどくさせていたということが印象に残りました。」

人権劇中の「差別をなくする活動」の場面は、明治時代終り頃から大正時代に行われた被差別部落外の人たちが行った「部落改善運動」や「融和運動」を指す。これらの活動は、差別の原因を被差別部落の人々の側に求め、部落外の人々の「同情」と「理解」を求める活動であり、そのため部落外の人たちに対する差別を逆に助長し、本来の差別解消には繋がらなかった。この活動は、いわゆる「部落解放運動」ではない。

西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課